

健苗育成に努め、田植えに備えましょう！

- ☞ 高温に注意し、ハウスの換気を十分行いムレ苗発生を防ぎましょう。
- ☞ 適正な防除対策を行い、病虫害被害を未然に防ぎましょう。

1. 育苗管理

関東甲信地方1か月予報(令和3年4月1日気象庁発表)では、向こう1か月の気温は平年並～高い確率90%となっています。日中の高温に注意し、換気・かん水量の調節を行いましょう。

○ハウス内管理のポイント

| | 出芽期～4日 | 第1葉展開以降 |
|------|---|-------------------------|
| 日中温度 | 25～18℃ 30℃以上にしない | 日中は25～18℃ 30℃以上にしない。 |
| 夜間温度 | 10℃ 最低5℃以上 | 5～7℃以上 |
| かん水 | <ul style="list-style-type: none"> ・3日目以降は晴天の日のみ1日1回、早朝(または午前中)かん水をする。 ※1回あたりのかん水の目安は、夕方に箱の回りが白く乾く程度 ・雨天、曇天の日のかん水をしない。 | |
| 換気 | <ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は、早朝より換気を行い、夕方は太陽が落ちる前に閉じる。 ・曇雨天の日でも、ハウス内に霧がちこめるようなときは、換気をする。 | |

2. イネ縞葉枯病防除対策について

縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカのウイルス保有率は、県内で高く推移しています(図1)。発病すると治療は困難なため、地域ぐるみで防除を実施しましょう。

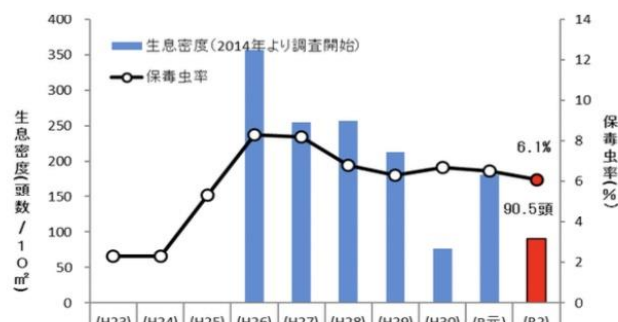


図1 ヒメトビウンカ第一世代幼虫の生息密度及びイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率

○ 箱施用剤の使用

- ・全ての品種で、ヒメトビウンカに有効な箱施用剤を使用する。残効性の長い剤(スターダム箱粒剤、ロングリーチ箱粒剤等)を積極的に使用しましょう。
- ・コシヒカリの場合は、5月中旬に移植して、箱施用剤の効果をヒメトビウンカ本田飛来時期(5月末～6月上旬)まで持続させましょう。

○ 本田防除の実施

- ・早植コシヒカリでは箱施用剤に加え、6月に本田防除を実施して要防除期間における薬剤の効果を持続させましょう。

3. 飼料用米生産における注意点

主食用米の需要は年々減り、米価は低下基調のため経営の見通しが立てづらい状況です。経営の安定化のため、飼料用米等の非主食用米に作付を転換しましょう。

また、作付転換の際は、以下の点に留意し適正な栽培管理を行い、収量を確保しましょう。

飼料用米へ作付転換し経営の安定化を図りましょう！

- ・営農計画書の変更は6/30まで可能です！
- ・各市町の農業再生協議会にご相談下さい。

○主食用米への混入防止

主食用米への混入を防ぐため、作付ほ場の団地化、機械施設の清掃、漏生稲対策（ほ場での異株抜取り、プレチラクロールを含む初期除草剤の使用）などを行い、混入防止対策を徹底しましょう。

○適正な栽培管理

ア 肥培管理

飼料用米は、品種特性の発揮や交付金の数量払いを確保するために、倒伏しない範囲での多肥栽培（基肥+追肥）が基本となる。耕畜連携による堆肥施用で経費の節減につとめましょう。

イ 病虫害防除

多肥栽培が基本となるため、いもち病やその他病虫害が発生しやすくなる。箱施用剤を使用し、発生を防ぎましょう。防除が行われないほ場は、病虫害、雑草の発生源となり、周辺の主食用米に被害を及ぼすおそれがあるため、発生状況に応じて適切な防除を行いましょう。

ウ 収穫

収穫は籾水分 25%以下とし、できるだけ立毛乾燥を行い、極力低水分で収穫しましょう。

4. 自然災害等のリスクに備えましょう

近年、異常気象による台風、降雹等が多発しており、作物の品質・収量への影響が懸念されます。農林水産省 HP に「自然災害等のリスクに備えるためのチェックリストと農業版 BCP」が掲載されているので、下記 URL もしくはQRコードからチェックリストをダウンロードして自然災害に備えましょう。

https://www.maff.go.jp/j/keiei/maff_bcp.html

(農林水産省ホームページ)

農業版BCP 農水省

